

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 30 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2013

課題番号：21520736

研究課題名(和文) 近世アイルランド・ジャコバイトによる環大西洋事業網の形成と展開

研究課題名(英文) Formation and Development of Atlantic business network of Irish Jacobite in the Early Modern

研究代表者

大峰 真理 (OMINE, Mari)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：70323384

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、アイルランドおよびスコットランド出身のカトリック信徒が近世北西ヨーロッパ経済の発展に果たした役割を明らかにすることであった。

研究期間中、現地の文書館および図書館、博物館等で史資料調査を行なった結果、これまで網羅的に調査・整理されることがなかった「船舶艀装申告書」(1694～1744年)を一覧化し、印刷・発行した。また数量分析にも着手して、ヨーロッパ沿岸貿易、アンティル諸島直行貿易、奴隷貿易など多様な海運事業に参入するカトリック信徒の活動と事業網を描出することができた。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to clarify the role of Catholics from Ireland and Scotland, played in the development of Early Modern Europe northwest economy.

I researched various historical sources materials at Archives, Museums and Libraries in France and in England. This five years work reached to realize the exhaustive list of "Declaration of Ship Outfitting" from 1694 to 1744, did not have to do ever. I have begun, also, the quantitative analysis and published the article(2013) to depict the various maritime business and the Catholics network on the European Coastal Trade, Antilles Trade, such as the Slave Trade.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：近世ヨーロッパ ジャコバイト 国際商業 環大西洋事業網 ヨーロッパ沿岸貿易 アンティル諸島直行貿易 奴隷貿易

1. 研究開始当初の背景

(1) 申請者は、これまで18世紀フランス奴隷貿易を考察し、博士論文(1999年)では特権商社会社の経営体制・民間商人による船舶艦装活動・西アフリカ内陸商業網の相互関連性を明示した。

(2) その過程で、とくに奴隷貿易に関与した海港都市の商人に関心をもったので、2000年以降は、フランス奴隷貿易第一位港であるナント実業界に着目し、研究を進めてきた。

(3) 日本学術振興会海外特別研究員として採用された期間中(2001~03年)は、現地文書館での一次史料調査に着手し、ナント実業界に占める外国商人の役割の重要性を認識した。

ナント実業界で活動する外国商人のうちもっとも大きな集団は、アイルランド出身者である。彼らは重層的な親族関係をきずき、多様な商業活動を展開して、ナント国際商業を牽引したのである。

(4) 以上の知見をえた申請者は、アイルランド出身カトリック信徒の国際商業ネットワークを再構成し、その広域的組織と多角的機能を解明すれば、近世フランス国際商業のあらたな発展要因を提示できるのではないかと着想し、科研費補助金<萌芽研究>を申請した。

(5) 科研費補助金<萌芽研究>交付期間中(2006~08年)は、ロワール=アトランティック県文書館(ナント)ほかの研究機関で一次史料の調査と整理をすすめた。

網羅的な調査に着手した結果、申請者は、1694年から1744年までに申告・登録された「船舶艦装申告書」の収集とデータ化を見通すことができ、史料一覧の原型を構築することができた。

(6) 本基盤研究(C)への申請は、上記(5)までの経緯と成果をふまえ、さらにそれを継続・発展させる目的のためである。

(7) 研究の学術的背景

名誉革命後、アイルランド出身のカトリック信徒(ジャコバイト)が大陸ヨーロッパに亡命した事実はよく知られるが、これまでの研究では、移動のおもな原因である宗教的迫害やスチュアート朝への忠誠といった政治的動機に問題関心が集まった。

これに対して本研究は、彼らの経済的役割に着目する。

カトリック信徒による海運・貿易への参入過程とその展開を明らかにすることは、カトリシズムと商業資本主義との関連性を考察することに他ならない。

これまでの社会経済史研究では、ヴェーバー以来、もっぱらプロテスタンティズムと商業資本主義との関係について繰り返し議論されてきたので、本研究から導かれる結果は、宗教的信仰と経済活動とのあらたな関連性を提示することになるだろう。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、アイルランド(およびスコットランド)出身のカトリック信徒が、近世北西ヨーロッパ経済の発展に果たした役割を明らかにすることである。

(2) 申請者は、前項1-(5)に至る過程で、次の知見をえた。

アイルランド出身のカトリック信徒の多くは、フランス大西洋沿岸の諸海港都市に移動したこと。

なかでも英仏海峡を挟んで位置するブルターニュ半島および港町ナントに定住したこと。

彼らは定住後まもなく、イギリス諸島、ヨーロッパ大西洋沿岸地域、スカンジナビア地域、カリブ海諸島との海上貿易に従事したこと。

彼らのうちの一部は、スペインやオランダ地域の有力諸都市に親族を配置し、海運・貿易に関する情報を収集していたこと。

カリブ海諸島では、プランテーションを購入し経営する一方、仲買商としても活動したこと。

(3) 本研究では、上記4地域に関わる史料収集を継続し、カトリック信徒の多角的事業者としての実像とその役割を解明する。

3. 研究の方法

(1) 本研究の目的を達成するためには、継続的で網羅的な史料調査と整理が必要である。そこで、現地の文書館および図書館、博物館に所蔵される一次史料を調査する。おもな研究機関と史料は、以下の通りである。

ロワール=アトランティック県文書館(ナント): 船舶艦装申告書、公証人文書、ブルターニュ会計院文書(租税関係)

イル=エ=ヴィレーヌ県文書館(レンヌ): 船舶艦装申告書、商業会議所文書

フィニステール県文書館(カンペール): 公証人文書

メーヌ=エ=ロワール県文書館(アンジェ): セラン公爵領関連文書

国立古文書館(パリ): 海外領関連文書、海外領民籍簿、外国人帰化証明書、公証人文書

フランス外務省文書館分館(ナント): 領事記録

トリニティー・カレッジ図書館(ダブリン)

イギリス国立海事・海軍博物館(ロンドン)

(2) 近年、データ化されつつある史料にも目配りをし、上記(1)とあわせて記録情報の収集と整理をおこなう。

(3) 記録情報を分析し総合する。実証的な学術論文を執筆・公表する。

4. 研究成果

(1) 研究のおもな成果は、以下の通りである。

現地の文書館等で史資料調査を行なった結果、これまで網羅的に整理されることがな

かった「船舶艦装申告書」(1694~1744年)を一覧化し、印刷・発行した。

記録情報の数量分析に着手し、ヨーロッパ沿岸貿易、アンティル諸島貿易、奴隷貿易など多様な海運事業に参入するカトリック信徒の活動と事業網を抽出し、学術論文として公表した。

(2) 成果の国内外における位置づけは、以下の通りである。

『史料一覧』について、フランス本国でも網羅的な史料調査と整理・分析は行なわれたことがなかったため、現地で出版することを検討している。現在大学出版会および学術図書出版社とのあいだで交渉中である。

公表した学術論文について、「記録資料がひどく欠落している状況を克服し、丹念に史料を発掘・分析した論文」であると紹介された(『社会経済史学』第79巻第1号、2013年、「編集後記」)。

(3) 今後の展望は、以下の通りである。

史料「船舶艦装申告書」に記録される情報の質と量を考慮すれば、今後、さらなる歴史研究の可能性を展望できる。

a. ナント港湾実業界の構成：奴隷貿易に関する商人等については、すでにある程度の研究が進んでいるが、そのほかの分野については十分な考察がまだない。18世紀前半のナント海運業の軸分野がヨーロッパ沿岸貿易とアンティル諸島貿易だったことに着目すれば、「船舶艦装申告書」のさらに詳細な分析をとおして、ナント港湾実業界の実像を描出できるだろう。

b. 今後も、アイルランド出身の商人に注目し続けることは、研究の継続性にかんがみて当然であるが、彼らの役割を過大評価することがないように、同時期に海運事業に関与する在地の商人、オランダ地方とドイツ地方出身者にかかわる記録の分析を並行する。この作業を通して、近世の北西ヨーロッパにおける国際商業ネットワークの解明が進むだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

大峰真理「18世紀前半フランス・ナントの海運業」『社会経済史学』査読有、第79巻第1号、2013年、63~83頁。

大峰真理「近世フランス国際商業港ナント研究の展望 - 史料「船舶艦装申告書」を素材として - 」『千葉史学』査読有、第60号、2012年、187~197頁。

〔学会発表〕(計4件)

大峰真理「近世フランスの国際商業と環大西洋地域」千葉大学 COE スタートアッププログラム研究会、2013年10月17日、千葉大学。

大峰真理「アイルランド・ジャコバイト

- 亡命宮廷をとりまく人々 - 」千葉大学文学部史学科シンポジウム「ディアスポラの近代 - 国境を越える歴史形成」千葉大学、2010年12月14日。

大峰真理「近世アイルランド・ジャコバイトによる環大西洋事業網の形成」国際商業史研究会、2010年11月27日、東京大学。

大峰真理「アイルランド商人の定着と北ヨーロッパ交易ネットワークの転換」シンポジウム「1680年代から近世ヨーロッパを視る - 政治・宗教・商業空間の転換とネットワーク - 」東京大学、2009年12月19日。

〔図書〕(計6件)

大峰真理、千葉大学文学部『船舶艦装申告書一覧 - ヨーロッパ沿岸貿易の痕跡』、2013年、166頁。

大峰真理、千葉大学文学部『船舶艦装申告書一覧 1694~1744年 ロワール=アトランティック県文書館(フランス・ナント) Série120J』2011年、655頁。

西川杉子、勝田俊輔、大峰真理ほか、東京大学大学院総合文化研究科『ODYSSEUS 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻 紀要別冊』「シンポジウム：ヨーロッパ近世における1680年代の再検討 - 名譽革命からの射程 - コメント(2) 商業ネットワークを中心に」、2010年、110~114頁。

川田順三、大峰真理ほか、山川出版社『新版世界各国史10 アフリカ史』「18世紀フランスの奴隷貿易」2009年、391~419頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

なし

6 . 研究組織

(1)研究代表者

大峰 真理 (OMINE, Mari)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：70323384